

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】 平成 29 年度

事業所番号	2794600045		
法人名	社会福祉法人 寿光会		
事業所名	グループホーム太寿		
所在地	大阪府柏原市太平寺1丁目4番30号		
自己評価作成日	平成 29年 11月 1日	評価結果市町村受理日	平成 30年 1月 9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/27/index.php?action=kouhyou_detail_2017_022_kani=true&JigyosyoCd=2794600045-00&PrefCd=27&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人大阪府社会福祉協議会
所在地	大阪市中央区中寺1丁目1-54 大阪社会福祉指導センター内
訪問調査日	平成 29年 12月 4日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者の思い・要望を聞き入れ、それに出来る限り添えるよう努力している。それぞれの生活スタイルが尊重され、主体的にその人らしく笑顔で心穏かに暮らせる場の創造を目指して、職員一同日々頑張っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

長年地域に貢献する社会福祉法人が、住み慣れた思い出のある地域で、その人らしく心豊かな生活の実現してもらうために開設したグループホームです。「周りの人の幸せを願うところに自らの幸せもある」の法人理念のもと、「家庭的な雰囲気の中で優しさと思いやりの心で支援しましょう」をホームの理念に掲げ、1回でも多く笑ってもらう暮らしを大切に支援しています。利用者一人ひとりの暮らしが尊重され、職員は、「自宅ではこんな風に暮らしていたらうな」と利用者の人生に思いを馳せながら個別ケアに取り組んでいます。また、決まり事を作らない自由な暮らしも大事にしています。食事が美味しいこともホームの自慢のひとつで、3食手作りの食事は、利用者と共に和気あいあいと準備しています。1ユニット9名のほのぼのとした温かい雰囲気の中での暮らしで、日中はほぼ全員食堂兼フロアで過ごしている居心地のよいグループホームです。

Ⅴ. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員が使うパソコン横の壁に社会福祉法人としても理念、GH の理念を貼り毎朝の申し送り時、朝礼の後で読み上げて理念を意識しながら入所者さんの介護支援をするようにしています	「周りの人の幸せを願うところに自らの幸せもある」の法人経営理念のもと、「家庭的な雰囲気の中で優しさと思いやりの心で支援しましょう」をホームの理念としています。理念はスタッフルームに掲示し、毎朝の申し送り時に職員が唱和しています。理念は職員間に共有され、「決まり事を作らない」、「自由な暮らし」、また、「1回でも多く笑ってもらうこと」を心がけています。	玄関に法人の経営理念は紹介されていますが、ホームの理念の掲示も検討されてはいかがでしょうか。外部からの訪問者に理念を理解してもらうことに繋がることを期待します。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	消防訓練時には近所の人にも声かけして参加して利用者さんと関わりをもっています。ボランティアさんのレクリエーションなどに参加して楽しむ、施設が毎年地域の祭りの休憩場所になりだんじりを見学に行ったり子供たちと話、写真を撮ったりして楽しんで居ます	ホームと地域の関係は年々密なものになっています。地域密着型特養と合同で行う落語会等の催しには地域住民も参加しています。また、地域ボランティアの協力を得てけん玉、フラダンス、歌、舞踊等の楽しみ事があります。法人主催の防災訓練には地域住民も参加しています。毎年、夏祭りのだんじりの休憩所として活用され、利用者も接待をしています。散歩する途中で出会う地域住民とは顔なじみになり、グループホームへの理解も広がってきました。管理者は、地域から今まで以上にホームへの理解が得られ、地域にも貢献できるよう、地域との連携を深めていく考えです。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を地域の人々に向けて活かしている	事業所としては近所の方の防災訓練に参加して頂く、地域の秋祭りの休憩所にしてもらう。 GH としてはお天気のいい日にはスーパーに買い物に行ったりして施設外に散歩に行く機会を作る		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	管理者、計画作成者、リーダーで担当して会議にでて GH 内の出来事、イベント、サービスなど報告しています。そして会議出席されてる方の評価、意見を聞いて今後の活動に生かしています	運営推進会議は、規定に沿って併設の特養と合同で、2ヶ月に1回開催することにしています。平成29年度は日程調整が難しく、1回分の開催ができませんでした。会議構成メンバーは、利用者、家族、地区福祉委員、市職員、地域包括支援センター職員等です。会議では主に、ホームの状況、ホームでの取り組み等を報告・説明し、参加者から評価や助言を得て、ホームの運営に活かしています。	今後は、運営推進会議の議事録を作成し、参加者・職員で情報を共有し、ホームの運営に活かすことが望まれます。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	毎回の運営推進会議後に市役所担当者、包括職員さんなどと会議内容以外の相談しています。市内の地域密着型施設の連絡会に参加して市役所担当者や他 GH などの協力関係を築いてます	市職員とは連携をとり、情報交換等で協力関係を築くように取り組んでいます。地域密着型事業所連絡会議には、市の職員も出席し、情報の交換と連携を深めています。事故報告や外部評価受審の結果報告も行っています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	入所者さんは自由にロビーなど行動して頂いています。しかし9人さんが何処に誰がいるかの確認は常にしています。裏庭など自由に出入りしている入所者さんには家族と本人さんと相談して夜間は施錠させてもらってます。スタッフには身体拘束のプリントで正しく理解する取組はしています	身体拘束廃止や虐待防止に関する研修を実施し、利用者の尊厳を守るケアの確認を行っています。鍵をかけないケアに取り組み、日中は玄関や出入口を開錠しています。毎日、自室から自由に庭に出て、洗濯物を干す利用者もいます。言葉による拘束についても職員間で話し合い、言葉遣いにも配慮しています。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についての資料をスタッフがいつでも見れるところに置いて朝礼などに利用者さんの例を出して話合う機会を作っています		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	新しく入られた方に将来成年後見制度を利用予定の方がいます、話が進めば都度スタッフに報告して一緒に勉強していきたいし、もうすでに利用されている方がいるので都度説明したいと思っています		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所契約には管理者、ケアマネが自宅に伺ったり、利用サービス事業所に伺ったりして必ず本人、家族さんには不安の内容に説明しています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入所者さんとは常に会話をして何でも話せる関係を作るように努力しています。面会に来られた家族様にも本人さんの日頃の生活の様子など話して問題点など相談しています	家族の面会時には、利用者の様子を報告し、その都度、意見や要望を聞いています。家族が意見・要望を言いやすい雰囲気づくりを大切にしています。家族より「面会に来るたびに笑顔が増えてきた」と言ってもらったケースがあり、職員間で喜び合いました。季節ごとに、利用者の暮らしぶりが伝わる写真入りの「太寿新聞」を発行し、家族にも送付しています。	家族の意見・要望を更に有効にするため、ホームとして一番確認したいテーマに絞り、行事等家族の集まる機会にアンケートを実施されてはいかがでしょうか。その際、ホームの取り組み状況での良いところ、評価できる点も同時に確認されてはいかがでしょうか。
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回のミーティングの間でも毎日の申し送りの機会にスタッフの意見を出し合うように環境を作っています	毎月のフロア会議で意見を出し合っています。出席できない職員には事前に意見を聞いています。また、毎日のミーティングも皆が意見を出し合っています。職員の意見は尊重され、チームワークのよい職場環境です。勤務希望をはじめ職員一人ひとりの事情への配慮は、職員の士気を高めています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スタッフとの会話、働いてる姿など観察して片寄のない仕事に振り分けています。シフトを作るときもスタッフの希望休を先に聞き優遇しています、スタッフの意見を尊重しながら業務を見守っています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入社後、オリエンテーションをして法人内の研修機会に行けるよう機会を作っています。またフロアミーティングの後には都度出てきた問題点などに対して短い研修の機会を作るようにしています		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型施設の連絡会に参加しています。意見交換したり地域の高齢者大学の勉強会に参加してネットワーク作りをしています		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前には自宅訪問をしたり、サービス事業所に訪問したりしてなじみの関係を作り本人の不安がなく入所して頂くように努力しています		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	自宅訪問時もゆっくり時間をかけて話合う機会を作っています、不安なことは協調をして安心して頂くように話させてもらいます。また入所後の面会も生活されている姿を報告して不安をとり除く努力をしています		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前後、家族、本人さんと相談した入所者さんの情報を開示して基本サービスを決めて援助をスタートします、スタッフには日頃の様子GH生活されてからの情報など収集、相談、サービスを決めたり、随時更新していきます。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入所者さんの出来る事とできない事を見極めて出来る事は本人にお任せしたり助けてもらおうと言う気持ちで見守ります		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人さんにとって家族さんとの絆が一番です、面会に来られた時もスタッフが最近の生活の報告をして助言、相談をしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方、家族さんの面会に来やすい環境作りをしています。また馴染の景色やスタッフと一緒に自宅に帰ったりしています、希望があれば自宅に電話して家族さんとの会話を楽しんでもらってます。	ホーム開設の目的である「住み慣れた思い出のある地域で、その人らしく心豊かな生活の実現」を職員は共有し、毎日の支援にあたっています。馴染みの友人や近所の人々が訪問しています。ドライブついでに自宅を見に行く利用者もいます。利用者は、ホーム屋上から家にいた時と同じ、慣れ親しんだ山や、家並み、風景を見ることができ、馴染みの場所との関係が継続しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	皆さんが輪になり話できる環境作りをしています。入所者さん一緒にテレビドラマを見てスタッフを交えてニュースや事件の事を話している事もあります、中には一人になりたい方もいて無理強いはいしない援助をしています		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院された方には定期的に面会に行き本人さんを励ましたり、家族さんと電話で話して気持ちを伺ったりしています、療養型の病院の情報など提供して不安を軽減できるようにフォローしています		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所者さんとは計画書作成時はもちろん、日常でも会話して心の変化をつかむように努力しています、スタッフからの情報も収集して本人さんに一番良い方法を家族と相談しています	利用者一人ひとりの小さな希望も叶えることを大切に支援しています。また、「自宅ではこんな風に生活していたんだろうな」と利用者の暮らしぶりに思いを馳せた関わりにも努めています。日常的な支援やコミュニケーションをとる中で、本人の気持ちを察してケアに活かしています。関わりの中での気づきや発見は、毎日のミーティングで情報の共有を行っています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の方の自宅やサービス利用時に訪問して情報把握しています。また居室に馴染みの家具など持って頂いたり自宅での趣味も継続して頂いています		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ロビーで皆さんと賑やかに過ごしたい方は居場所を作り過ごしてもらい居室で静かに過ごしたい方は無理強いをしない様にしています。トイレに行かれる姿も見守り、状態把握をして日報や連携ノートに書きスタッフと連携しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングは月はじめや前半にはスタッフに提示し担当を決め記入してもらってます。急ぐ時は日勤のスタッフと意見交換したり、家族の意見も聞いています、計画書作成後も毎日の支援が本人に合っているか確認しています。	利用者・家族の思いや希望を尊重した介護計画になっています。支援記録ファイルには、各利用者のサービス内容が書かれており、職員はサービス内容を確認しながら支援にあたっています。モニタリングは担当職員が毎月行い、計画の更新は6ヶ月を基本としています。更新時には、事前に家族にも意見や要望を聞いています。計画作成担当者は「利用者一人ひとりが安心して暮らせるような計画」を心がけています。支援記録も丁寧に残し、利用者の暮らしぶりや表情が見える記録となっています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録は素早く的確に記入するように努力しています、計画書と照らし合わせて変更があれば鉛筆で記入しておいて見直し時活用しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	常に本人さんの立場になり支援するように努力しています。GH生活すべてがサービスです、本人さんの過ごしやすい空間づくり希望されるサービスなど出来る範囲で提供させて頂いてます		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人は心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のお祭りや共有ホールでのボランティアさんのレクリエーション参加して楽しまれています、天気の良い日には施設の屋上に行き気分転換してもらっています		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	日頃の本人さんの身体状態を把握して看護師と連携して受診が必要であれば家族と連絡を取ってます、主治医に直接連絡したり、家族さんと協力しながら対応しています	ほとんどの利用者が入居前からのかかりつけ医に受診をしています。看護師は毎日利用者の状態を見て健康管理を行っています。夜間や急変時は看護師からホームの嘱託医に連絡し、必要な指示を受けています。職員は急変時に対応できるように「救急医療情報シート」を作成し、スムーズに対応できるようにしています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調など変化があれば都度、看護師に報告し相談しています。家族さまにも報告し、医療機関に受診してもらっています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院した際は、ケアマネージャーと共に病院へ行き、状態など経過の情報を聞き、家族との連絡も密に行っています。病院側とも(短期、長期の入院中の様子)密に、情報交換をしています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	マニュアルに沿って対応します。 重度化した入居者様に対しては、出来るだけ希望に沿った支援を行う方針を伝え、家族を含め、医師、看護師、ケアマネ、介護職員らと相談しながら出来る限りのケアを実施してまいります。	「重度化した場合における対応に係る指針」を作成し、入所時に利用者、家族に説明し、同意を得ています。重度化した場合には利用者、家族の希望をもとに主治医、看護師、職員で話し合いをしています。希望があれば法人内の特養への入所支援も行っています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急連絡網に沿って実施します。 医療に関する内容については、看護師の指導のもと実施しています。 新人研修の中で、マニュアルに沿って周知しています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災、台風・大雨洪水、地震など防火訓練を行っています。マニュアルも作成し、地域の方々に協力を依頼し、又、消防署と連携し、年 2 回の訓練を行っています。 今年は、10/24 防災訓練を実施しています。	年に2回の避難訓練は消防署の協力を得て実施しています。また、ホームの立地から想定される台風や水害に対しての避難訓練も実施しています。避難訓練の際には地域住民が参加し、利用者の避難誘導にあたっています。 災害時を想定し、数日分の水や食料を備蓄しています。	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人、個人の人格を尊重し、プライバシーにも配慮した個別支援を行っています。個人情報の書類等に関しては、鍵付きの棚に保管しています。 親切に丁寧な言葉かけを心がけ笑顔で接していくように心がけています。 職員に対しても、外部に漏らす事無く守秘義務の徹底を行っています。	全体ミーティングの際に人権、虐待防止についての研修を行っています。利用者への個人の尊重やプライバシーの確保については日常的に職員に周知し、特に言葉遣いについては、親しくなっても年長者に対する丁寧な言葉かけをするように心がけています。希望があれば入浴や排泄の介助の際に同性介助で対応しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけしている	一人ひとり話される事を真摯に受け入れ傾聴し、意思の尊重を行っています。出来る事を出来る範囲で、出来る限りの支援をしています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの意思やペースの把握を行い、個々を尊重し、希望に沿った支援を行っています。日々の生活が充実されるように、努力しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一人ひとり、身だしなみやお洒落に気配り目配りをしています。個人の希望に沿った衣類を着用されています。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節を感じながら、旬の食べ物を提供しています。 好き嫌いやアレルギーにも気を付けながら食事の提供をしています。 食事の下ごしらえ（野菜の皮むきや切る、炒めるなど）や、盛り付け、食後の洗い物など、職員と共に行っています。	献立は利用者の希望を聞き取り1ヶ月単位で作成しています。調理は3食ともホームで手作りしています。食事の準備時には、下ごしらえや盛り付けなど利用者全員がそれぞれの役割を持ち、オープンキッチンを取り囲んで和やかに行われています。調理は専門の職員を中心に行われ、見た目に美しい盛り付け、ご飯の炊ける匂いやおかずを調理する音、美味しい味付けなど利用者の五感に働きかける工夫をし、毎食残飯はなく、利用者と職員と一緒に談笑しながらの食事風景が見られます。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一 日を通じて確保できるよう、一人ひとり の状態や力、習慣に応じた支援をして いる	家庭的な食事をと、職員と共に献立を 考え、栄養のバランスも考慮しながら、 提供しています。 一人ひとりの食事量や嗜好にも配慮し ています。 水分も1日 1000cc以上を目標に実施 しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、 毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人 の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行い、歯磨き、義 歯洗浄、うがい等、個人に合ったケア を実施しています。 義歯を使用されている方は、毎晩、ポ リデント洗浄しています。 自歯、義歯の不具合や口腔内のトラブ ルに至っては、家族さんとも相談し、診 察が必要となった場合は歯科受診をし ています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、 一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を 活かして、トイレでの排泄や排泄の自立 にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄のパターンを把握し ながら、時間を見て声かけをし、誘導 を行っています。尿意、便意のある方 は自由にトイレに行かれています。 自室にトイレがある為、プライバシーに も配慮しています。 自立支援を心がけた対応を行い、なる べくトイレでの排泄支援を行っていま す。	基本はトイレでの排泄です。職員は利 用者一人ひとりの排泄パターンを把握 し、それぞれの状況に合わせて、さり げなく、声かけ、誘導、見守り等行っ ています。トイレが各居室にあることで安 心して排泄することができ、排泄の自 立に繋がっています。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ヨーグルトや牛乳、食物繊維を食事に取り入れ、体操や腹部マッサージ、ウォシュレット洗浄など、便秘予防に努めています。 COT-3 日目の方には、下剤を服用される方もいます。数日(一)が続く方には浣腸を施行する場合があります。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は週2回～3回を基本にしています。体調や外出などの関係で、間隔がズれる事もありますが、基本的に個々に合わせて、入浴をしてもらっています。体調不良などで数日、入浴が出来ない方には、看護師と相談し清拭や手浴、足浴を行っています。入浴を望まない方に関しては、声をかける職員を替えたり、時間のタイミングを図りながら、入居者さんの気持ちに添って対応しています。	入浴は基本的には週2回～3回ですが、必要により、シャワー浴や陰部洗浄、清拭を行い、清潔保持に努めています。入浴を好まない利用者には無理強いすることなく、時間を変え、気分をうかがう等職員は工夫しながら楽しい入浴ができるように配慮しています。季節感のあるゆず湯や菖蒲湯も取り入れて入浴を楽しんでもらっています。同性介助を希望する利用者には同性で介助します。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々に生活習慣も違いがある為、意思を尊重しています。自室で休みたい時には休んでいただいています。 夜間も様子を見ながら、就寝の声かけをしています。 強制はしないように心がけています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとり、お薬手帳と内容書をファイルし、職員全員が共有しています。 新しい薬が処方された際にも、説明書を確認し皆に周知、服薬期間をマーカーで線を引き、様子を確認しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々に、生活スタイルも趣味も違うので、それを崩すことなく、意思の尊重をしながら、出来る事、出来る範囲の事をされています。 料理が好き、歌を歌う、塗り絵が好きなど、個人がやりたいことを選択してもらい、実行されています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	真夏の間は、なかなか外出が出来なかったが、室内での散歩や屋上で少しの外気浴などを行っていました。 屋上へ上がり、PLの花火を見たのも喜ばれています。 春に、遠足も行きました。公園内を散策しながら、綺麗な花を見て、皆さん、とても楽しまれました。	一日に1回は外の空気を吸う生活を大切にしています。行事では、梅や桜の季節の花見、外食等で外出しています。家族と外出する利用者もいます。近所のスーパーに買い物に行くこともあります。ホームの屋上からは、慣れ親しんだ山や、家並み、風景を見ることができ、思い出話が弾みます。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	各個人の小口現金(小額)を預かり、日用品や嗜好品の購入をしています。基本的に個人では、現金は所持されていません。預かり金が減ってきたら、必要に応じて家族に連絡をしています。出納帳を記入し、家族に提示しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本院自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	電話の希望者は、施設の電話を使用しかけてもらっています。手紙や年賀状などが届けば、ご本人に手渡しています。		
52	19	○居心地のよい共有空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	常に掃除も心がけ、清潔を保つようにしています。季節に応じて設えもかえられています。なるべく自宅で過ごされているような空間を作り出せるように工夫をしています。お花や緑が目に着くように心がけています。	ホームは地域密着型高齢者施設の1階にあります。ホーム内は明るく、穏やかな雰囲気です。リビングのカウンター越しのキッチンからは、ご飯の炊ける匂いや食事の準備の音が聞こえ、生活感が漂っています。リビングにはテレビを囲むようにソファを配置し、利用者はテレビを見たり雑誌を読んだりしながら自由に過ごしています。日中もリビングで過ごす利用者が多く、居心地のよいリビングとなっています。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	プライバシーが守れるように、心がけています。好きな時間に好きな場所で過ごしてもらっています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族が持参された家具を配置しています。テレビやラジオ、タンスを置き必要な家具を置かれています。ぬいぐるみや造花を置き、癒しの空間を作っている方もおられます。	本人が気持ちよく過ごせる居室づくりを大切にしています。各居室にはトイレが付いています。利用者はタンスや椅子、テレビ、時計等使い慣れた家具を持ち込み、お気に入りのぬいぐるみや家族の写真を飾り、それぞれ個性のある部屋になっています。屋外に通じるガラス戸には障子を取り付けられ、明るく清潔感があります。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に配慮し、転倒の障害になる危険な物がないように注意しています。 トイレの把握が難しい方には、トイレ前にセンサーマットを置き、自らトイレに行かれたことが分かるようにしています。		